



JAPANESE JOURNAL OF MATHEMATICS

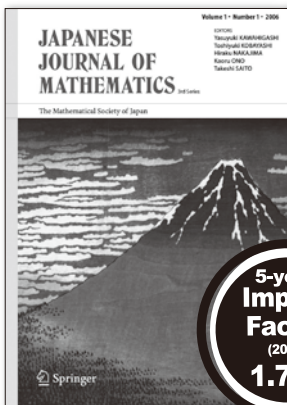
JJMは2005年の存続の危機を乗り越え、継続して出版されることになりました。2006年より3rd Seriesを創刊、最高レベルのサーベイを出版する国際学術誌(年2回発行)として生まれ変わりました。

おかげさまで5周年、今夏、トムソン・ロイター社は5年インパクト・ファクター(2010)でJJMが世界の数学の対象ジャーナル全277誌の中で12位と発表しました。

JJMの5年インパクトファクター : 1.786

Editors

小野 薫 (北海道大学)
河東泰之 (東京大学)
小林俊行 (東京大学)
斎藤 毅 (東京大学)
中島 啓 (京都大学数理解析研究所)



最新号 (2011年第6巻1号) を紹介します。

A. コンヌ (高木レクチャー) 『BC系とL-関数』

Abstract この講演では、コンサニと共に得られた新しい結果を含む、BC系とL-関数の間の関係のサーベイを行う。各素数 p と、 \mathbb{F}_p の代数的閉包の乗法群の、1の複素べき根としての埋め込み σ に対し、整BC系の p 進分解不能表現 π_σ を構成する。この構成は、 \mathbb{F}_p の大ヴィット環の同定と、アルティン・ハッセ指数関数を実際に作ることによって行われる。このようにして得られる表現は、BC系の複素端点 KMS_∞ 状態の p 進類似である。我々は p 進L-関数の理論を用いて、分配関数を決定する。これらの結果は、標数1のヴィット構成の類似と共に、有理数の大域体に対する、関数体の算術に幾何学的支持を与える曲線の類似の構成に向かうさらなる証拠を与える。

S. ブレンドル (高木レクチャー)

『リーマン幾何学における発展方程式』

Abstract リーマン幾何学における基本的な問題として、与えられた微分可能多様体の標準的な計量を見つけよ、というものがある。1980年代に、この問題へのアプローチとして、ハミルトンは放物型の偏微分方程式を用いたアプローチを提唱した。与えられた計量を初期条件として出発し、発展方程式を用いて標準的な計量へと変形していく、というのがゴールである。リーマン計量に関しては、リッチ流や共形山辺流など自然な発展方程式がいろいろとある。その大域的な挙動を議論する。特に、このような手法で、微分可能球面定理の証明をどのように証明するかを解説する。

M. メイザー, B.V. ペトレンコ

『補遺 “オイラーの定理のアーノルドによる行列への一般化について”』

図書委員の先生方へ：新規購読をおすすめします。

【連絡先】〒110-0016 東京都台東区台東1-34-8 社団法人 日本数学会 Fax : 03-3835-3485
年2回発行 ISSN: 0289-2316 (冊子版) ISSN: 1861-3624 (電子版) 年間購読料 ¥25,000 + 税 / EUR198.00

彌永昌吉先生が100歳で発表された書き下ろしや、アーノルド等の特別寄稿を掲載した創刊号から最新号まで冊子単位でも購入できます。会員割引 ¥7500+税/冊子 もあります。

広く一般の会員の皆様からのご投稿をお待ちしております。

 社団法人 日本数学会

投稿規定は <http://www.springer.jp/JJM/>